

吉野川大橋(仮称)の概要

1. 橋の位置



2. 橋の諸元



橋長: 1,696.5m(吉野川に架かる橋として最長)

幅員: 9.5m(暫定2車線)

橋梁形式: PC15 径間連続箱桁橋

架設工法: プレキャストセグメント工法による張出し
架設、固定式支保工

施行箇所: 徳島市沖洲～徳島市川内町

完成予定: 2021 年度内

3. 吉野川河口域の自然環境及び環境保全の取り組み

(1) 豊かな自然環境

吉野川の河口周辺は広大な干潟が広がり、上流側 14.5 kmにある第十堰までの間は淡水と海水が混ざり合う汽水域となっており、多種多様な生物が生息・生育する貴重な水域が広がっています。

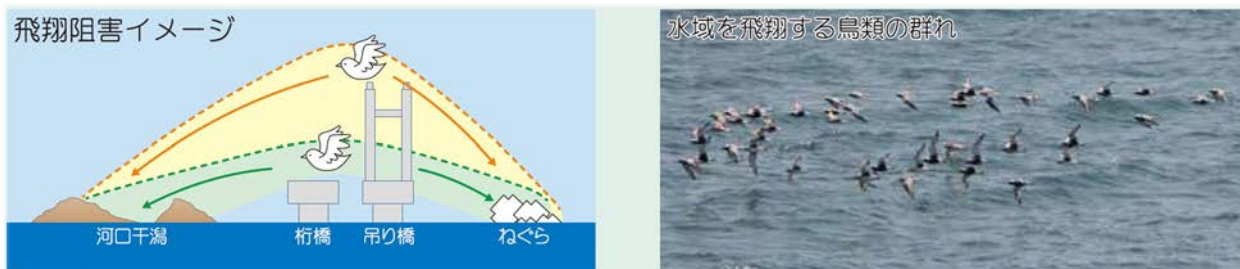
そのうち、この橋が整備される河口域周辺でも数多くの生物が生息・生育しており、数多くの渡り鳥が飛来しています。



(2)環境保全に配慮した橋梁形式の採用(PC15 径間連続箱桁橋の採用)

環境にやさしい橋梁形式を検討し、最大支間長 130m のコンクリート橋桁を採用しました。

①鳥類の飛翔阻害軽減のため、主塔やケーブルのない桁橋を採用しました。



②地形改変(浚渫及び流況変化の影響)を軽減するため、橋脚の数を極力削減しました。

橋脚	形式	略 図	地形改変		鳥類への影響	影響
			施工時の浚渫	流況		
多い ↑ 少ない	※採用! コンクリート桁橋の条件で橋脚本数を減らす。 L=80m ~ 130m 支間長を長く 	※橋脚施工時の浚渫 大 ※橋桁施工時の浚渫 影響なし ※流況へへの影響 大	小 大 小	小 ※鳥類の飛翔状況への影響 小	大 小 大	
	※鋼製桁橋は、台船を用いて架設するため浚渫が生じる。 L=125m ~ 250m 	大 小 大	大 小 大	小 大 小	小 大 小	大 小 大
	※吊り橋は鳥類の飛翔阻害が大きくなる。 L=500m 	大 小 大	大 小 大	大 小 大	小 大 小	大 小 大